

第3・4学年 算数科 複式学習指導案

日 時 平成28年 9月30日(金) 5校時
 児 童 3年男子2名 女子4名 計6名
 4年 女子2名 計2名
 指導者 教諭 赤松 温美

I 単元について

1 単元名

| | |
|-------------------|---------------------------|
| 第3学年 かけ算の筆算(1) | 第4学年 わり算の筆算(2)ーわる数が2けた |
|-------------------|---------------------------|

2 教材について

| 第3学年 | 第4学年 |
|--|---|
| <p>本単元で扱う乗法の筆算は、算数科学習指導要領第3学年「A数と計算(3)乗法について理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。」に位置づけられている。</p> <p>本単元では、2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばすことが主なねらいとなる。</p> <p>本教材は、被乗数が何十、何百の乗法から始まり、2位数～3位数×1位数の計算を導入し、乗法の筆算形式とともに、その計算の原理や手順についての理解を図り、結合法則や倍の計算へ適用させるという構成になっている。児童にとって、段階的に乗法の理解を深めるのにふさわしい教材といえる。</p> | <p>本単元で扱うわり算の筆算は、算数科学習指導要領第4学年「A数と計算」(3)整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。」に位置づけられている。</p> <p>本単元では、整数の除法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばすことが主なねらいとなる。</p> <p>本教材は、何十でわる計算から始まり、2～3位数÷2位数＝1位数、3位数÷2位数＝2位数の計算方法に発展させ、除法の性質について理解を深める構成になっている。児童にとって、段階的に除法の理解を深めるのにふさわしい教材である。</p> |

II 児童について

1 各学年の実態

| 第3学年 | 第4学年 |
|--|---|
| <p>第3学年児童は、学習意欲の高い児童もいるが、算数に苦手意識をもっていて、理解に時間のかかる児童もいる。第1単元でかけ算の学習をしており、既習内容の九九の見直しや分配法則、変換法則、0のかけ算などについて学習してきた。かけ算に対する苦手意識は、低いと感じられる。しかし、単純な計算はできても、乗法の意味の理解が十分とは言いがたい。さらに、学習時間中に集中力が途切れてしまう児童もおり、普段はサポートの助けを得ながら授業を行っている。</p> | <p>第4学年児童は、学習意欲が十分にあり、既習を生かして考えようとする事ができる。第3単元のわり算の筆算では、単純に手順に従って筆算をするだけでなく、筆算の中に出てくる数字と図とを関わらせながら説明をすることができていた。しかし、一度で商を見つけられず立て直す姿が見られた。2人しかいないので、どちらかが解けないと、もう一方の考えに頼るしかない。間違いを指摘しあって、正しい答えにたどりつける時はよいが、どちらも解けない場合は学習が停滞してしまう。</p> |

2 複式学級としての実態

普段は別々の黒板を使い、それぞれの学年の学習を進めることが多い。なかなか共通導入や共通終末となるような組み方ができていない。4学年児童は、自力解決の力が高く、話し合いも自分たちで行うことができるので、間接指導になる時間が長い。一方3学年児童は、個別指導が必要な児童がおり、個人差も大きいので、自分たちで進めることは難しい。そのため直接指導の時間が長い。学習の振り返りが一緒のタイミングでできるときには、なるべく一緒に行い、その日の学習を交流している。

III 指導について

| 第3学年 | 第4学年 |
|--|--|
| <p>本単元の学習にあたっては、模擬貨幣・数直線とテープをあわせた図、アレイ図、言葉、式などを用いて考えたり、それらに関係付けながら説明したりする活動を重視したい。乗法の筆算形式の学習では、問題が易しいものから難しいものへ配列されており、段階的に能率よく練習効果をあげられるようになっている。その際、形式だけを覚えこませることにならないよう、部分積が繰り上がる場合など、部分積を省略せずに書かせて、その原理を十分に理解させた上で、一般的な筆算形式に移行していきたい。本単元の内容は、第16単元の2～3位数×2位数の計算の基礎にあたってあるので、筆算の原理の理解とともに、計算技能も十分高めておきたい。</p> | <p>本単元では、1位数でわる筆算を発展させ、除数が2位数の場合を扱う。計算を進めるときの考え方や手順は除数が1位数の場合と同じだが、除数が2位数の場合は、たてるの段階が複雑になってくる。仮商をたててみて、それを修正して商を求めなければならず、商の求め方が試行錯誤的になることもあり、複雑である。このような求め方は初めてで不慣れな作業であるので、児童によっては理解しにくく、慣れるためには時間的配慮が必要となる。仮商を見つけるときは、「切り捨て」による方法と「四捨五入」による方法がある。何十にまるめるときは、近い数で見えていくという数感覚を大切にしたい指導をするよう、配慮していく。</p> |

IV 単元の目標

| 第3学年 | 第4学年 |
|---|---|
| <p>2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばす。</p> | <p>整数の除法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばす。</p> |
| <p>【関心・意欲・態度】 2～3位数×1位数の筆算の仕方について、乗法九九などの基本的な計算を基にできることのよさに気づき、学習に生かそうとする。</p> | <p>【関心・意欲・態度】 整数の除法の計算について、既習の基本的な計算を基にしてできることのよさに気づき、学習に生かそうとする。</p> |
| <p>【数学的な考え方】 2～3位数×1位数の筆算について、数の構成や既習の乗法計算を基に考え、表現したりまとめたりすることができる。</p> | <p>【数学的な考え方】 整数の除法の計算の仕方について、見積もりや除法の性質、既習の除法計算を基に考え、表現したりまとめたりすることができる。</p> |
| <p>【技能】 2～3位数×1位数の乗法の筆算の手順を基にして、計算が確実にできる。</p> | <p>【技能】 整数の除法の筆算の手順を基にして、確実に計算することができる。</p> |
| <p>【知識・理解】 2～3位数×1位数の乗法の筆算の仕方について理解する。乗法の結合法則を理解する。</p> | <p>【知識・理解】 整数の除法の筆算の仕方や除法について成り立つ性質について理解する。</p> |

V 指導計画

| 第3学年 | | | | | | | 第4学年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|----------|---|---|---|---|------|------|----------|---|---|---|---|------|--|--|--|--|--|-----------|--|--|--|--|--|-------------------|--|--|--|--|--|---|--|--|--|--|--|---|--|--|--|--|-----------|
| 時 | ねらい・学習活動 | 関 | 考 | 技 | 知 | 評価規準 | 時 | ねらい・学習活動 | 関 | 考 | 技 | 知 | 評価規準 | 評価問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ① 何十、何百のかけ算 | 1 | ○何十、何百に1位数をかける乗法計算の仕方について理解し、その計算ができる。 ・九九表の空欄の求め方を考える活動を通して、被乗数の数範囲を拡張した乗法への興味・関心を高めるようにする。 ・20×3の計算の仕方を考える。 | | | | | ◎ | | | | | | ◎ | 【関】何十、何百×1位数の計算の仕方を、数の相対的な大きさや、既習の乗法九九の計算を基にして考えようとしている。 | | | | | ノートや発言の様子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | ・その式を立てたわけを説明する。 ・かけられる数が10倍になると、答えも10倍になっていることをまとめる。 ・200×3の計算の仕方を考える。 | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | ノートや発言の様子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 2けたの数に1けたの数をかける計算 | 3 | ○2位数×1位数(部分積がみな1桁)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 ・場面をとらえ、立式について考える。 ・23×3の計算の仕方を、アレイ図や模擬貨幣を使ったり数操作をしたりして考え、答えを求める。 | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | ◎ | 【考】2位数×1位数の筆算の仕方を既習の乗法九九などを基に、具体物や図、式を用いて考え、説明している。 教P99△2① □をうめて計算の仕方を説明しましょう。 ①31×3の答えは、30×3と□×3の答えを合わせた数です。 | | | | | ① 何十でわる計算 1 | ○何十でわる計算の仕方を理解し、その計算ができる。 ・何十×□の式の、条件に合う□にあてはまる数について話し合いながら、新たな課題となる、除数が2桁の除法計算への興味・関心を高めるようにする。 ・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・60÷20の計算の仕方を考えまとめる。 ・90÷20の計算の仕方を考える。 | | | | | ◎ | ○ | | | | | 【考】10を単位として、何十でわる計算の仕方を考え、説明している。 教P102△1① □をうめて答えましょう。10をもとにして考えると、80÷40は□÷□の計算で求められる。 | | | | | |
| | 4 | ・23×3の筆算の仕方をまとめる。 ・適用問題に取り組む。 | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | ◎ | 【知】2位数×1位数の筆算形式の書き方や手順を理解している。 教P99△1 ①32×3の筆算について答えましょう。□にあてはまる数を書きましょう。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> $\begin{array}{r} 32 \\ \times 3 \\ \hline \square\square \\ \square\square \\ \hline \square\square \end{array}$ $\begin{array}{r} 32 \\ \times 3 \\ \hline \square\square \\ \square\square \\ \hline \square\square \end{array}$ </div> | | | | | | | | | | | ◎ | ○2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 ・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・84÷21の筆算の仕方を考える。 ・除数を20(切り捨て)とみて、商の見当をつける。 ・84÷21の筆算の仕方をまとめる。 | | | | | 【関】84÷21などの計算で、前時の何十でわる計算を用いて商を見積もろうとしている。 | | | | | ノートや発言の様子 |
| | 5 | ○2位数×1位数(一の位の数との部分積が2桁)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 ・1辺16cmの正方形の周長を求める式を考え、その計算を筆算でする仕方を考える。 | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | 【技】2位数×1位数(一の位の数との部分積が2桁)の筆算ができる。 教P100△4①② 計算をしましょう。 ①28×3 ②13×7 | | | | | 3 | ・87÷21の筆算をし、全山をする。 ・計算練習をする。 ・「算数新発見！」を読み、商の見当をつける際、被除数と除数の両方をまるめる方法があることを知る。 | | | | | ◎ | | | | | 【考】除数が何十の場合の計算を基にして、2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を考え、説明している。 教P105△1 どうしてイの方が商のたて方が正しいのか、理由も説明しましょう。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--------------------|---------|--|---|--|---|---|---|--|---|---|--|
| | 6 | ○2位数×1位数(十の位の数との部分積が2桁、及び部分積がみな2桁)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 ・ 42×3 、 58×3 の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 | ◎ | 【技】2位数×1位数(十の位の数と部分積が2桁、及び部分積がみな2桁)の筆算ができる。 | 教P101△5①、△6①計算をしましょう。 ① 83×2 ① 79×3 | ◎ | ○2位数÷2位数の筆算で、過大商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。 ・ $86 \div 23$ の筆算の仕方を考える。 ・除数を20(切り捨て)とみて、商の見当をつける。 ・過大商の場合の仮商修正1回の仕方を理解し、この型の計算練習をする。 ・ $81 \div 12$ の筆算の仕方を考える。 ・過大商の場合の仮商修正2回の仕方を理解し、この型の計算練習をする。 | ◎ | 【技】見積もりをして仮商をたてて過大商のときの仮商を修正し、計算することができる。 | 教P106△3①、△4①計算をしましょう。 | |
| | 7 | ○2位数×1位数(部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 ・ 29×4 、 76×4 の筆算の仕方考える。 | ◎ | 【技】2位数×1位数(部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり)の筆算ができる。 | 教P102△8①④、△9①④計算をしましょう。 ① 16×8 ④ 35×3 ① 58×9 ④ 78×9 | | ◎ | ○2位数÷2位数の筆算で、過小商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。 ・ $78 \div 19$ の筆算の仕方考える。 ・除数を20(切り上げ)とみて、商の見当をつける。 ・過小商の場合の仮商修正の仕方を理解し、この型の計算練習をする。 | ◎ | 【技】見積もりをして仮商をたてて過小商のときの仮商を修正し、計算することができる。 | 教P107△6①⑤計算をしましょう。 ① $83 \div 37$ ⑤ $85 \div 27$ |
| ◎3けたの数に1けたの数をかける計算 | 8 本時 | ○3位数×1位数(部分積がみな1桁)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 ・場面をとらえて立式し、 312×3 の計算の仕方考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 | ◎ | 【考】3位数×1位数の筆算の仕方を2位数×1位数の筆算を基にして考え、説明している。 | 教P104△1① □をうめて計算の仕方を説明しましょう。 ① 212×4 の答えは、□×4と□×4と□×4の答えを合わせた数です。 | ◎ | ○2位数÷2位数の筆算で、除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算することができる。 ・ $87 \div 25$ の筆算の仕方考える。 ・除数を切り捨てた(過大商)場合と切り上げた(過小商)場合の筆算の仕方を比べる。 ・自分が仮商をたてやすい除数の処理の仕方考える。 ・計算練習する。 | ◎ | 【考】除数の見積もりを基に、仮商のたて方を工夫して考え、説明している。 | 教P108△7① ① $47 \div 15$ かおりさんやひろきさんのように、仮の商をどのように修正したのか吹き出しを書いて説明しましょう。 | |
| | 9 | ○3位数×1位数(一、十の位と数との部分積が2桁)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 ・ 386×2 の筆算の仕方考える。 | ◎ | 【技】3位数×1位数(一、十の位と数との部分積が2桁)の筆算ができる。 | 教P105△2①④⑦計算をしましょう。 ① 318×3 ④ 291×3 ⑦ 466×2 | | ◎ | ○3位数÷2位数=1位数の筆算の仮商のたて方を理解し、その計算ができる。 ・ $153 \div 24$ の筆算の仕方考える。 ・計算練習をする。 | ◎ | 【技】3位数÷2位数=1位数の筆算ができる。 | 教P109△10①⑤⑨計算をしましょう。 ① $284 \div 43$ ⑤ $127 \div 25$ ⑨ $149 \div 21$ |
| | 10 | ○3位数×1位数(部分積がみな2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 ・ 937×4 の筆算の仕方考える。 | ◎ | 【技】3位数×1位数(部分積がみな2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり)の筆算ができる。 | 教P105△4①⑦計算をしましょう。 ① 812×4 ⑦ 238×3 | | ◎ | ○3位数÷2位数=2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 ・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・ $345 \div 21$ の筆算の仕方考える。 ・ $345 \div 21$ の筆算の仕方をまとめる。 | ◎ | 【考】既習の除法の計算を基に、 $345 \div 21$ などの計算の仕方を図や式を用いて考え、説明している。 | 教P111△1①筆算の仕方を説明しましょう。 ① $546 \div 21$ |

◎2けたの数でわる筆算(1)

| | | | | | | | | | | | | |
|--------|----|--|---|--|---|--|---|-----------------|---|--|---|---|
| | 11 | ○3つの数の乗法が1つの式に表せることを知り、乗法の結合法則について、理解する。 ・場面をとらえ、代金の求め方について考え、検討する。 ・場面を3口の乗法の式で表す。 ・3口の乗法の結合法則をまとめる。 | | | ◎ | 【知】乗法の結合法則を理解している。 | 教P106△6① $90 \times 3 \times 3$ について答えましょう。どちらの計算の仕方が簡単でしょう。 ア $(90 \times 3) \times 3$ イ $90 \times (3 \times 3)$ | | ◎ | ○3位数÷2位数=2位数の筆算で、除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算することができる。 ・計算練習をする。 ・ $476 \div 15$ で、除数を切り捨てた(過大商)場合と、切り上げた(過小商)場合の筆算の仕方を比べる。 | 【技】3位数÷2位数=2位数の筆算ができる。 | 教P111△2①④計算しましょう。 ① $476 \div 15$ ④ $462 \div 14$ |
| ④ 倍の計算 | 12 | ○ある量の何倍かにあたる数を求めるときに、かけ算を用いることを理解する。 ・140cmの3倍の長さを求めるにはどんな計算をすればよいか考える。 | ○ | | ◎ | 【知】ある量の何倍かにあたる数を求めるときには乗法を使うことを理解している。 | 教P107△1 □に当てはまる数を書いて求めましょう。今日とんだ回数は、きのうとんだ回数をもとにすると□つ分だから、□×□で、□cmです。 | ③ 2けたの数でわる筆算(2) | ○ | ○商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な筆算の仕方や、除数が3桁の場合の筆算の仕方を理解し、それらの計算ができる。 ・ $941 \div 23$ 、 $960 \div 16$ の筆算の仕方を考える。 ・計算練習をする。 ・ $732 \div 216$ の筆算の仕方を考える。 ・216を200とみて、仮商をたてる。 ・計算練習をする。 | 【知】商に0がたつ場合(商が何十)の簡便な筆算の仕方や、除数が3桁の場合の筆算の仕方を理解している。 | 教112△4①、△5① ① $645 \div 32$ 省略できるところを省略して筆算に表しましょう。 ① $460 \div 115$ 115をだいたいいくらとみて仮の商をたてればよいでしょうか。 |
| | 13 | ○ある数が基にする大きさの何倍かを求める場合にも除法が用いられることを理解する。 ・36mが9mの何倍かを求めるにはどんな計算をすればよいか考える。 ・何倍かを求めるには除法を使えばよいことをまとめる。 | ○ | | ◎ | 【知】ある数が基にする大きさの何倍かを求めるには除法を用いることを理解している。 | 教P108△2 大なわとびで、ちえみさんのはんは21回、けんさんのはんは7回とびました。ちえみさんのはんは、けんさんのはんの何倍とびましたか。  | ④ わり算のせいしつ | ○ | ○除法の性質について理解する。 ・商が等しいわり算の式を見比べて除法の性質について考える。 ・除法の性質をまとめる。 | 【知】被除数、除数の両方に同じ数をかけても、両方を同じ数でわっても、商は変わらないという除法の性質を理解している。 | 教P113△1② ② $210 \div 30$ と答えが同じになる計算を一つ選びましょう。 ア $210 \div 3$ イ $21 \div 3$ ウ $21 \div 30$ |
| まとめ | 14 | ○学習内容を適用して問題を解決する。 ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 | | | ◎ | 【技】学習内容を適用して、問題を解決することができる。 | 教P109△1①⑩、△3問題を解きましょう。 ① 30×2 ⑩ 613×4 チューリップの球根を、1列に25こずつ植えます。球根は全部で何個あればよいでしょうか。 | まとめ | ◎ | ○末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方を理解し、正しく余りを求めることができる。 ・ $24000 \div 500$ の筆算の仕方を考え、末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方をまとめる。 ・ $2700 \div 400$ の筆算の仕方と、末尾に0のある数の除法での余りの求め方を考える。 | 【技】末尾に0のある数の除法の簡便な方法による筆算や余りを求めることができる。 | 教P114△2①、△3①計算しましょう。 ① $2800 \div 40$ ① $850 \div 60$ |
| | 15 | ○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 ・「しあげ」に取り組む。 | | | ◎ | 【知】基本的な学習内容を身に付けている。 | 教P111◇3①しんじさんがはじめに 2×5 をしたのはどうしてでしょう。 | | ◎ | ◎ | ○学習内容を適用して問題を解決する。 ・「力をつけるもんだい」に取り組む。 | 【技】学習内容を適用して、問題を解決することができる。 |
| | | 次の単元 | | | | | | | ◎ | ○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 ・「しあげ」に取り組む。 | 【知】基本的な学習内容を身に付けている。 | 教P116◇4 $240 \div 80$ と商が等しい式はどれですか。理由も説明しましょう。 |

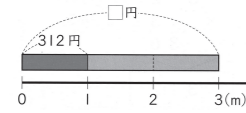
V 本時の指導

| 本時の指導(第3学年) | | 本時の指導(第4学年) | | | | |
|--|--|---|---------|---|---|-------|
| 3位数×1位数(部分積がみな1桁)の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。 | | 2位数÷2位数の筆算で、除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算することができる。 | | | | |
| 本時の展開(8/15) | | 本時の展開(6/14) | | | | |
| 段階 | 指導上の留意点 | 学習活動 | 形態 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 段階 |
| つかむ | <ul style="list-style-type: none"> 言葉の式だけでなく、図の中で立式の根拠を考えさせる。また、図の構造が、今までの2位数×1位数の場面と同じになっていることを確認する。 既習と違い、かけられる数が3桁になっていることから、課題を設定する。 最終的に筆算の仕方につなげることを目的として、それに つながるように考えていくという方向性を明確にしておく。 | 1 学習課題の把握 <ul style="list-style-type: none"> 問題を読み、題意をとらえる。 分かっていること、聞いていることに線を引く。 立式をし、ペアで式の確認をする。 | 共通⑤ | 1 学習課題の把握 <ul style="list-style-type: none"> 問題を読み、題意をとらえる。 課題を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 前時までに学習したわり算の筆算も振り返るようにさせる。 | つかむ |
| | | 2 見通し <ul style="list-style-type: none"> 312×3 300×3だから900円よりは高い。 課題を確認する 312×3の計算の仕方を考えよう。 | 間接⑤ 直接⑤ | 2 見通し <ul style="list-style-type: none"> わる数の25を20とみる わる数の25を30とみる | | |
| しらべる | <ul style="list-style-type: none"> 式・図・言葉、いろいろな方法で説明できるように声をかける。 筆算につなげるにはどうしたらよいか書き加えさせる。 筆算で書いた児童には、計算の過程について、図や言葉で説明を加えさせる。 | 3 自力解決 <ul style="list-style-type: none"> 百の位に300が3こで900、十の位に10が3こで30、一の位に2が3こで6なので、合わせて936。 312を300と10と2に分けて300×3=900、10×3=30、2×3=6。合わせて936。 | 直接⑤ | 3 自力解決 <ul style="list-style-type: none"> 87÷25の筆算の仕方を考え、各自ノートにどのように考えたのかを書く。 25を20とみると、仮商を4から3に修正。 25を30とみると、仮商を2から3に修正。 早く終わったら、黒板に書いておく。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちで進めさせる。ペア学習でも分からなかったときは、教科書を見て、考えさせる。困ったときは、教師に声をかけさせる。 仮商修正の過程を書き残しておかせる。 一方の仮商のたて方で求められた児童には、時間の余裕があれば、もう一方の仮商の立て方でも考えるように指示する。 | しらべる |
| | | 4 比較検討 <ul style="list-style-type: none"> ペアで説明し合う。 説明の共通点から、筆算につながる考えをみつける。 | 間接⑤ | 4 比較検討 <ul style="list-style-type: none"> ペアで説明し合う。 | | |
| まとめる | <ul style="list-style-type: none"> 友達の発表を聞いて、さらに他の児童にも説明させる活動を取り入れる。 筆算の書き方は、部分積を書く方法を扱った後で、一般的な形の筆算につなげる。 図と筆算の計算過程を関係付けながら確認する。 | 4 比較検討 <ul style="list-style-type: none"> ペアで説明し合う。 説明の共通点から、筆算につながる考えをみつける。 | 間接⑤ | 5 学習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> 仮商修正の仕方をまとめる。 わる数を何十とみて、かりの商が大きすぎたときは、商を小さくしていく。かりの商が小さすぎたときは、商を大きくしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> それぞれの方法に共通していること、違っていることを考えさせる。 児童の実態に応じて、わる数を小さくみると仮商が大きくなり、わる数を大きくみると仮商が小さくなることにもふれる。 | まとめる |
| | | 5 学習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> 312×3の筆算の仕方と、そこからわかったことをまとめる。 312×3の計算は、312を300と10と2に分ければ筆算ができる。位ごとに分けて計算すれば、九九で簡単に答えが求められる。 | 直接⑤ | 6 評価問題 <ul style="list-style-type: none"> △7①を解く。 47÷15 かおりさんやひろきさんのように、仮の商をどのように修正したのか吹き出しを書いて説明しましょう。 | | |
| たしかめる | <ul style="list-style-type: none"> □うめで説明させる。 【考】3位数×1位数の筆算の仕方を2位数×1位数の筆算を基にして考え、説明している。 | 6 評価問題 <ul style="list-style-type: none"> △1①を解く。 □をうめて計算の仕方を説明しましょう。 ①212×4の答えは、□×4と□×4と□×4の答えを合わせた数です。 | 間接⑧ | 7 適用問題 <ul style="list-style-type: none"> △7の残り、△8、△9を解く。 | <ul style="list-style-type: none"> 仮商修正の過程を書き残させる。 間違っても消さずに、正しい答えを書いておく。 2人で確認して進めさせる。 【考】除数の見積もりを基に、仮商のたて方を工夫して考え、説明している。 | たしかめる |
| | | 7 適用問題 <ul style="list-style-type: none"> △1残りの筆算を解く。 | 共通⑤ | 8 ふりかえり | | |
| ふりかえる | <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習で使った考え方に焦点を当ててふりかえりをする。 「今日の学習は、どんな考え方で解決しましたか？」 | 8 ふりかえり | 共通⑤ | 8 ふりかえり | <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習で使った考え方に焦点を当ててふりかえりをする。 「今日の学習は、どんな考え方で解決しましたか？」 | ふりかえる |

VI 板書計画

第3学年

問題 1 1mのねだんが312円の
リボンを、3m買います。
代金はいくらか。



見通し
・ 312×3
・ 300×3 だから900円よりは高い。

課題
 312×3 の計算の仕方を考えよう。

自分

| 百 | 十 | 一 |
|-----|-----|----|
| 100 | 100 | 10 |
| 100 | 100 | 10 |
| 100 | 100 | 10 |

23×3のときは、23を20と3に分けたから...
312×3

312×3

| | | |
|-------------|-----|----------------|
| 300×3 = 900 | 312 | 300 10 2 |
| 10×3 = 30 | | |
| 2×3 = 6 | | |

あわせて 936

- ・百の位に300が3こで900
- ・十の位に10が3こで30
- ・一の位に2が3こで6
- ・合わせて936。
- ・312を300と10と2に分けて
 $300 \times 3 = 900$
 $10 \times 3 = 30$
 $2 \times 3 = 6$
 合わせて936。

312×3の筆算のしかた

| | | | |
|-----|---|---|--------|
| 312 | × | 3 | 「三二が6」 |
| 312 | × | 3 | 「三一が3」 |
| 312 | × | 3 | 「三三が9」 |

まとめ
 312×3 の計算は、312を300と10と2に分ければ筆算ができる。位ごとに分けて計算すれば、九九で簡単に答えが求められる。

- △1①
□をうめて計算の仕方を説明しよう。
①212×4の答えは、□×4と□×4と□×4の答えを合わせた数です。
- ②～⑦
ふりかえり

第4学年

問題 5 $87 \div 25$ の筆算のしかたを考えよう。

かおり 25を20とみまし。大きすぎた。1小さくする。3
 $25 \overline{)87}$
 50
 100
 ひけない

ひろき 25を30とみまし。小さすぎた。2大きくする。3
 $25 \overline{)87}$
 50
 37
 まだひける

見通し
・わる数の25を20とみる
・わる数の25を30とみる

自分

わる数を20とみる。1小さくする → 3
 $20 \overline{)87}$
 100
 ひけない

わる数を30とみる。1大きくする → 2
 $30 \overline{)87}$
 50
 37
 まだひける

まとめ
わる数を何十とみて、かりの商が大きすぎたときは、商を小さくしていく。かりの商が小さすぎたときは、商を大きくしていく。

- ・△7①
 $47 \div 15$
 かおりさんやひろきさんのように、仮の商をどのように修正したのか吹き出しを書いて説明しよう。
- ・△7の残り、△8、△9
 ふりかえり